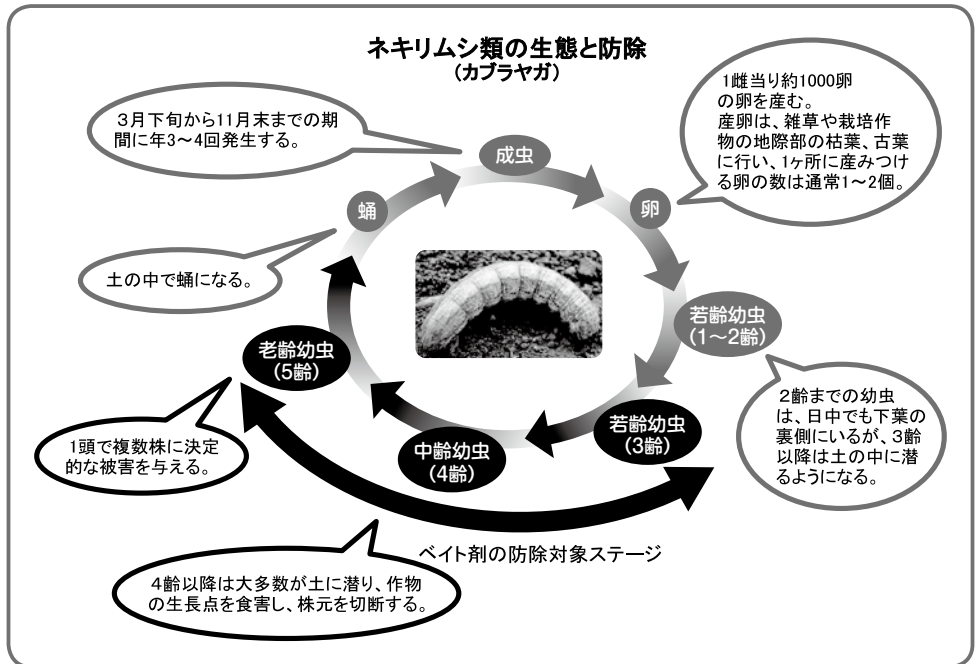


ネキリムシ類 (カブラヤガ、タマナヤガ幼虫)

生態と防除



被害

- 若齢 (1~3 齢) 幼虫は主に植物の葉を食害しますが、食べる量が少ないことや、株あたりの虫数が少ないことが理由で被害はさほど問題になりません。しかし、4 齢幼虫以降は、作物の生長点を食害したり、株元を切断したりするので大きな被害になります。したがって、作物の定植時期、発芽時期が中齢幼虫~老齢幼虫期に重なる時期の被害が問題となり、早春から初夏、秋に定植・は種される野菜では、大きな被害につながります。
- 中齢幼虫~老齢幼虫は、片寄りがあるものの圃場全体に分布し、1 頭で複数株に決定的な被害を与え、特に休耕地や前作が野菜であった所に被害が出やすい傾向にあります。